

仮称) 成熟したシビルエンジニア活性化小委員会  
第3回会議議事メモ(案)

\* 概要

- ・ 日時 ; H20.2/1(金) 3:00 ~ 6:00 pm
- ・ 出席 ; 全 10 名 ( 柴山委員欠席 )
- ・ 場所 ; ナチュレック会議室
- ・ 資料 ; ・ 資料 3 - 0 前回議事メモ
  - ・ 資料 3 - 1 技術推進機構面談関連(面談メモ & 学会 HP 発表)
  - ・ 資料 3 - 2 研究討論会募集要項
  - ・ 資料 3 - 3 シンポジウム全体構成案
  - ・ 資料 3 - 4 基調講演者候補 ( 世界麺フェスタの資料追加 )
  - ・ 資料 3 - 5 話題提供者候補
  - ・ 資料 3 - 6 「土木学会の対応」メモ
  - ・ 資料 3 - 7 想定される具体作業項目
  - ・ 資料 3 - 8 今年度のアウトプットについて
  - ・ 資料 3 - 9 成熟したシビルエンジニア活性化小委員会活動基本計画 ( 案 )
  - ・ 資料 3 - 10 小委員会ホームページ案

\* 議事

1 . 議事(前回 & 今回)及び資料確認

2 . 報告事項

(1) 土木学会の関連動向について

土木学会「技術者登録制度」について、山登委員から資料 3 - 1 に基づいて技術推進機構にヒアリングした結果の説明があった。

雇用登録や業者登録をしなくてもシステム自体は誰でも活用することが可能である。資格制度そのものは、世界に通用する土木の資格がないことから始められたものである。

(2) 全国大会研究討論会への参加募集

委員長より資料 3 - 2 について説明。小委員会として適切なテーマが有れば手を挙げることにしたい。

3 . シンポジウムの計画について ( 意見交換 )

資料 3 - 3 に基づき、構成内容の案の説明が内藤委員からあった。

(1) 開催の目的と基本構成

成熟したエンジニアとはどういう人のことを指すのか、活性化する必要があるのか、何をもちいて活性化とするか等の明確化が必要である。そうしないと曖昧になってしまい、シンポジウムにおけるメッセージ性が無くなってしまふ、との問題提起があった ( 日比野委員 )。

以下の各委員の意見が出された

- ・土木学会員はひと角の技術者であり、土木全体が不況であるから全体を活発にするということであるのか。
- ・「成熟」とは年齢的なものと能力的なものとの2面がある。
- ・「成熟したエンジニア」はひとそれぞれとらえ方が違い、イメージも違う。
- ・日本国内ではどのくらいのひとが対象となるのか。能力があり、意欲のある人が対象であり、必ずしもリミットが厳しいわけではない。
- ・登録制度でいうAランクの人はみなさん活躍している人であり、Cランクではほぼ全員になってしまう。
- ・成熟については2つの意味を持たせない方がよい(分かりにくくなる)。シンポの性格としてソリューション型または問題提起型なのかをはっきりさせたい。答えを求めめるのではなく、問題提起型でいきたい。
- ・タイトルは興味を持てるものである。日本の土木界が元気のであるものにしていきたい。今まで土木界に育てられ、これからはお礼奉公する場所があるとよい。
- ・基本的には問題提起型になる。定義の曖昧さについては、参加した人すべてが成熟したエンジニアであると考えてはどうか。
- ・いままで土木界でやってきた人がどのように社会に還元するか。知力・体力・徳力が大きな意味で活用できるか。
- ・若い人でも成熟した人がいる。業界全体が白い眼で見られている中、どのように業界に恩返しできるかが出発点になる。
- ・社会資本の量と質が急激に変化している。定年まであと10年くらいの方がどうしていけばよいのか、非常に不安を感じている。団塊の世代が抜けたあとのシミュレーションができていない。数字的な押えが必要である。
- ・シンポジウムが1回で終わらなければ、その問題・課題ごとにシンポジウムをやれば良い。その問題に優先順位がついてくれば、それごとに開催するののも一つの方法である。
- ・定義づけしないと議論ができないわけではない。日本語として意味が通じる範囲での議論をすれば良いのではないか。

方向付け

- ・基本的な構成・内容については了解された。
- ・用いている言葉に関する厳密な定義については、今回は想定しないことで考える。
- ・シンポジウムの性格としては、問題提起型のもの考える。

## (2) 具体内容について

基調講演者について(資料3-4)

- ・森地先生は、今後の社会資本整備について見識を持っており、基調講演者としてふさわしいと考える。
- ・森地先生に伺ったところ、成熟したシビルエンジニアの定義等について問われた。現時点ではお願いするのは難しい。
- ・歴代の土木学会の会長がふさわしいと考える。  
石井現会長、丹保元会長、松尾元会長の順で考える。現会長に先ず打診する。

話題提供者について（資料 3 - 5）

a.話題提供者の内、事業者・企業について

- ・再雇用、定年延長などのマネジメントをしてきた方をお願いしたい。
- ・建設マネジメントの小委員会の中で、自治体の人がいるかどうかは確認できる(西村委員)。
- ・県で人事のことを担当していた人が良いのではないか。現職はお願いしにくいので、外郭団体等に移られた方がいるか。
- ・企業(GC)については、土工協の委員もしくは委員長はどうか。
- ・ゼネコンのチャンネルは有岡委員を主体にして検討してもらおう。

b.話題提供者の内、当該個人の立場の人について

- ・「インフラと係わって」はコンサル出身者が良い。実際に活動されている方（清野さん、大野博久さん）はどうか。コンサル以外では花村さん、辻田さんが居られる。委員長があたる。
- ・「インフラを超えて」については児玉委員の提案の通り進める。

パネル討論

- ・外部パネリストについて、米田雅子さんはいろいろなところに出ており、適任かと思う。
- ・「理系白書」を書いている毎日新聞の関連で、元村有希子さんはどうか。
- ・その他、尾田栄章さん、宮本博司さん（淀川流域委員長）はどうか。委員長が米田さんに先ずあたる。・パネル討論会の司会は、日比野委員にお願いする。

その他

- ・開会のあいさつは親委員会川島委員長にお願いすることで考える。近々依頼する。
- ・時間配分は、終了を 4 時 30 分にして、パネル討論を 75 分とする。

(3)具体作業

- ・シンポに関連して具体の作業として資料 3 - 7 に示されるような項目が有る。その具体化を近々図る。
- ・学会誌会告は 4 月に出すとすると、2 月初めまでに提出しないとしない。タイトル、構成、費用などの内容となる。CPD の申請も必要となる。

4 . 今年度のアウトプットについて

- ・資料 3 - 6&3 - 8 が概略説明された。
- ・内容については、整理して、もう少し掘り下げないといけない。
- ・次回の審議事項とする。

5 . その他

小委員会 HP について

- ・資料 3 - 10 によって内容案が説明された。
- ・シンポジウムの紹介を早期に載せる必要がある。

次回委員会

平成 20 年 3 月 12 日(水)午後 3 : 00 ~ ( E 会議室確保 )

以上。